平木ひろみ の提案が前進！

光のミュージアム

民主党神戸市会議員団が提案してきた「光の都　神戸」のコンセプトを反映して、平成23年度に「神戸市夜間景観形成実施計画（都心・ウォーターフロントエリア）」が策定され、より魅力的な夜間景観形成を図っています。

平成24年度から先行的に取り組んだフラワーロード「光のミュージアム」がスタートしました。

パイロット事業の一つとして、フラワーロードのシンボルである「花」「緑」「彫刻」をライトアップし、「光のミュージアム」をテーマとした道路空間を創出する整備がされました。このたび、全体整備計画（布引交差点～税関前交差点）約2.1ｋｍのうち、国際会館前交差点から市役所１号館前交差点までの約250ｍの整備が完成しました。

光源にはＬＥＤを採用し、景観に配慮したデザインと落ち着いた電灯色の車道照明になっています。歩道照明は、神戸らしさをイメージしたデザインで、レトロな異国情緒が感じられます。街路樹には根元から光をあてて浮かび上がらせ、豊かな緑が美しい明るさ感を創出しています。花壇や彫刻に光をあてることにより、いっそう美しく輝いて見えます。

車道照明と歩道照明は、日没から朝まで、樹木、花壇、彫刻などのライトアップは、日没から午前０時までです。

夏の日差しが落ちた後の散歩に、ぜひフラワーロードを歩いて新しい神戸の魅力を楽しんでみてください。

コンベンションセンター再構築

神戸市は2022年度を目標に、国際展示場再整備の方針を打ち出しました。国際的競争力の高い施設にする10年計画です。これは私自身も機会をとらえて質疑し続けてきた構想が実現に向けて前進したものです。

《2010年　産業振興局への平木の質疑からの抜粋》

神戸は1981年に全国に先駆けてコンベンションセンターを作り、コンベンション都市の先がけとして重要な役割を果たしてきました。世界各国ではコンベンションが産業の振興を通じた都市の活性化を図る上で最良の方策と考えられるようになり、コンベンションを核とした都市経営に大きく軸足を置いていると言ってよいと思います。コンベンション誘致は、ただ会議や展示会を神戸で開催してもらう、ということだけではなく、直接経費の消費のみならず波及的経済効果も大きく、大変裾野の広い産業です。

2009年3月に財団法人都市問題研究所のまとめた調査によると、2007年度神戸市内で開催された会議、展示会への参加は797団体120万人で、会場関係費と飲食・宿泊費を合わせた直接支出額が920億円、神戸市産業連関表による生産誘発額は1447億円となり、その額は観光産業全体の30%に当たると推計されています。波及的効果としては、商談行為、技術交流とその成果、論文発表、製品発表など大変広範囲な効果が挙げられます。医療産業都市構想で多くの医療関連企業が集積しつつある今、コンベンションを産業ととらえて誘致にしっかり取り組んでいくことは神戸の未来にとって欠かせない施策です。

神戸のソフト面での強みを最大限に活かし、都市間競争に勝ち抜き「コンベンション都市こうべ」として発展を目指すためにも、ハード面から早期に今ある施設の総合的見直しを行い、会議主催者の多様なニーズに対応していける新しいコンベンションホールの建設を進める必要があると思いますが、ご見解をお伺いします。

東日本大震災被災地の現状を直接伺いに石巻市を今年も訪問してきました。がれきの山はほとんどなくなり、きちんと分別されて処分が進み「きれいになった広い土地」が広がっていますが再建された家は数えるほど。石巻市だけでも128か所ある仮設住宅に住む人々の日常生活は落ち着いてきているように見えるものの、経済基盤が確立していないため不安が大きく、住む仮設住宅によって生活条件が違うため温度差が生じてきている現実もあります。

復旧の段階から本当の意味の復興へと進んでいくのはこれから。息の長い支援を続けていきたいと思います。

平木ひろみ事務所
〒650-0045
神戸市中央区港島1-1-9-407
TEL　(078)303-1319
FAX　(078)322-6161
MAIL　hiromi-hiraki@kobe-minshu.jp
URL　http://www.hirakihiromi.com

神戸市会議員（中央区）
平木ひろみ
2013年 夏号
市会報告